

研究分野	資源管理	部名	資源管理部
研究課題名	うすめばるトータルプラン推進事業（資源管理調査）		
予算区分	水産総合研究センター費（県単）		
試験研究実施年度・研究期間	平成18年度～平成19年度		
担当	田澤 亮		
協力・分担関係	水産総合研究センター増養殖研究所、ふるさと食品研究センター		

〈目的〉

ウスメバル漁業の収益アップを図るため、資源増大を目的とした人工種苗生産による放流技術の開発及び効果的な資源管理方策の開発、新たな産業としての養殖業の創出、及びブランド力向上に係る鮮度保持、一次加工製品の開発を行う。

〈試験研究方法〉

(1) 資源管理調査（水産総合研究センター実施分）

- ①漁獲実態調査 ②年齢組成調査 ③陸奥湾内資源調査 ④移動経路調査

〈結果の概要・要約〉

(1) 資源管理調査

①漁獲実態調査

県内主産地である日本海の小泊漁協(周年)と津軽海峡の尻労漁協(盛漁期)の銘柄別漁獲実態を過去に遡って集計した。(図1、2)

②年齢組成調査

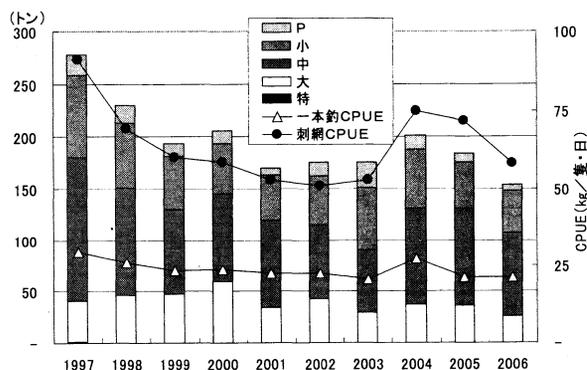
尻労漁協のウスメバルについて6月に2回、銘柄別にサンプリングし魚体測定を実施した(図3)。また、陸奥湾口の脇野沢漁協のウスメバルについて10～12月にサンプリングし魚体測定を実施した(図4)。

③陸奥湾内資源調査

陸奥湾内のほたて養殖籠にい集するウスメバル稚魚の出現状況のモニタリングを実施した。湾口部の定置網に入網するウスメバル稚魚のモニタリングを実施した。

〈主要成果の具体的なデータ〉

図1. 小泊漁協の銘柄別漁獲数量と漁法別CPUE



青森県漁連銘柄規格

銘柄	入れ数	3.0kg入れ
2P	26尾以上	
P	22～25尾	
小	17～20尾	
中	12～15尾	
大	9尾まで	
特	8尾以下	

図 2. 尻労漁協の銘柄別漁獲量(5, 6月の銘柄割合を年間に引き伸ばした)

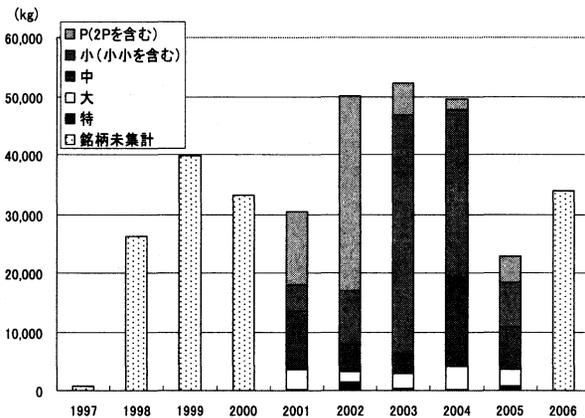


図 3. 尻労漁協の銘柄別尾叉長組成

(2006年6月、底建網)

銘柄 尾叉長(cm)	大	中	小	P
11	0	0	0	0
12	0	0	0	1
13	0	0	0	0
14	0	0	0	1
15	0	0	0	5
16	0	0	0	24
17	0	0	0	53
18	0	0	0	26
19	0	0	0	3
20	0	0	13	1
21	0	0	30	1
22	0	19	33	0
23	0	35	9	0
24	5	17	0	0
25	22	17	0	0
26	30	2	0	0
27	4	0	0	0
28	2	0	0	0
29	1	0	0	0
合計	64	90	85	115
平均体重(g)	297	223	161	75

図 4. 脇野沢漁協の尾叉長組成

(2006年10~11月アイナメ籠、12月底建網)

尾叉長(cm)	10月	11月	12月
11	2		
12	3		
13	24	5	
14	40	31	
15	16	25	
16	6	9	2
17	5	8	9
18	4	17	27
19		1	23
20			13
21			6
22			6
23			4
24			2
合計	100	96	92
平均体重(g)	45	58	121

〈今後の問題点〉

効果的で実行可能な資源管理方策の開発。

〈次年度の具体的計画〉

継続して主産地の漁獲統計の整理を行うとともに、魚体測定結果から年齢組成を把握し、尻労におけるウスメバルの漁獲動向と小泊での漁獲動向の関係について把握する。

〈結果の発表・活用状況等〉